

如し、眼圓く、瞳子尖く光り、手足の指水かきありて、鰭に似たり、常は水底に潜て形を顯さず、偶陸に出て人に敵する時は、力つよく、走るを追へば、早ふして捉がたし、或は組て勝事を得るあれば、其身發熱して煩ふ、もし是が爲に害せらる、者は、必肛門より臟腑を引出されて、死を免る、なし云々、河童の説何方も同じかるべし、

〔閑窓自語〕近江水虎語

近江なりけるもの、かたりしは、湖水にかはら水虎俗にかはたらふなり、あるおほくあり、人をとり、あるはかどはかし、又はよふけて、人の門戸にきたりて、人をよびなどするなり、これをさくるには、麻がらをおけばきたらず、又さ、げ豆大角をいむ、これを帶ぶる人にちかよらず、又舟に鎌をかくるも、これをさくるまじなひといへり、

肥前水虎語

肥前の玄まばらの社司某かたりていふ、かの國にもかはたらう多くあり、年に一兩度ばかりは、かならず人を海中に引き入れて、精血をすひてのち、かたちをかならずかへすなり、いかなるもの、さとりしめけるやらん、かの亡屍を棺に入れず、葬らず、たゞ板のうへにのせ、草庵をむすびて取り入れ、かならずしも香花をそなへずおけば、この屍のくつるあいだに、かの人をとりしかはたらう身體らん壞して、おのづから斃る、まらざればかはたらう人間の手にとらふべきものにあらす、いはんや、いづれのとりしといふ事をもまりがたし、いと奇術なりとぞ、かはたらう身のらんゑするあいだ、かの死がいをおくやのほとりを、かなしみなきめぐる、人そのかたちを見ず、たゞこゑをきくとなん、もしあやまちて香花をそなへしむれば、かはたらうかの香花をとるかへり、食すれば、その身らんゑせずといへり、棺に入れ葬れば、これも斃る、におよばすとぞ、およそかはたらう身をかくす術をえて、死せざれば見る事あたはず、多力にして姦惡の水獸なり